

竜の子奨学生

第26号
Aug.2020

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



CONTENTS

- ② 財団支援者の皆様へ
- ⑤ 令和二年度 新入生紹介
- ⑦ 竜の子近況報告
- ⑪ 竜の子 (OB・OG) 近況報告
- ⑫ マスク寄付者一覧



財団支援者の皆様へ

日頃より当財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況の中において財団設立以来ずっと続けてきた交流会の開催を断念いたしました。

日本文化に触れ日本を理解する、そして奨学生との「絆」を築くということを目的に開催してきた交流会ですが、奨学生の生命と健康を守り、感染しない、感染させないことを徹底するためにやむを得ず開催を見送ることになりました。

そのような状況の中において、財団卒業生より「新型コロナウイルスが蔓延している状況の中で少しでも財団の皆様になりたい。」という事で2万枚のマスクを寄付がありました。

卒業してもこのような心遣いを持ってくださっていること、そして財団との絆を大切にしてくれていることを大変嬉しく思います。

今後も財団では日本とアジアの架け橋になる人材の育成に努めてまいるとともに、財団一同が一丸となってこの難局を乗り越えていきたいと思っております。

公益財団法人 竜の子財団

理事長 秋元 竜弥

竜の子卒業生より理事長へ

公益財団法人 竜の子財団

秋元理事長

私たち留学生に温かい手を差し伸べていただいた竜の子財団と関係者の皆様に、有志の奨学生より恩返しのマスクを寄贈いたします。

厳しい状況の中、47名の有志の奨学生たちは知恵を絞り、わずか3日間で2万枚以上（計22,500枚）のマスクを調達することができました。「今こそお世話になった竜の子財団に恩返しを！」、「飲水思源、初心を忘れるべからず」との感謝の思いで微力を尽くしてまいりました。

私たちは竜の子財団から無限の勇気をいただいたからこそ、留学生生活を継続でき、今、それぞれの夢を実現することができました。富士山頂登山、野球観戦、東京マラソン、沖縄ビーチバレーなどをはじめ、竜の子奨学生としての楽しい思い出と誇りは、一生忘れることがありません。

わずかなお気持ちですが、竜の子財団の日常業務並びに財団関係者の皆様にお役立てたら幸いに存じます。何事もなくこの事態を乗り越えられるようお祈りし、理事長、財団の皆様と再会できることを楽しみにしております。

竜の子 有志の奨学生一同

2020年4月29日

● マスク寄付者一覧 ●

張 冲	立命館大学
万 欣	電気通信大学
張 勳	北海道大学
胡 政飛	北海道大学
王 佳寧	北海道大学
権 慧	東京大学
郭 甜甜	東京医科歯科大学
方 梅	九州大学
朱 震	京都大学
劉 睿	名古屋大学
李 双春	東京電機大学
朱 琳	東京外国語大学
田 安娜	九州大学
劉 彦平	一橋大学
楊 茹	九州大学
曾 嘉林	九州大学
趙 蘭英	京都大学
王 小凡	一橋大学
金 奕群	早稲田大学
索 麗姪	東京外国語大学
羅 宏勝	慶応義塾大学
朴 敬玉	一橋大学
宋 寿連	慶応義塾大学
曹 洋	京都大学
張 政陽	東北大学

ピョー インウィン	京都大学
金 兌炫	京都大学
馮 岩飛	北海道大学
温 允	京都大学
王 姪琴	明治大学
季 雯卿	一橋大学
張 愚	九州大学
房 福明	東京工業大学
タバ マガル プナム	東京電機大学
グエン ヴタオ グエン	立命館アジア太平洋大学
杜 銘雨	立命館アジア太平洋大学
孫 揚	立命館大学
王 宇飛	東京大学
王 悦来	東京工業大学
シャリアズ エムディ	立命館アジア太平洋大学
陳 悦	名古屋大学
チェッタナシャイ カニター	早稲田大学
楊 志剛	日本大学
馬 千駒	北海道大学
マハウオンウィリヤ スタシニー	東海大学
郭 中樑	東京大学
陳 佳	一橋大学
王 俊紅	北海道大学
魏 登輝	東京外国語大学
孫 敏華	東京大学

竜の子財団の奨学生の皆さんへ

こんにちは。

新型コロナウイルスの突然襲来によって、私たちの日常生活が大きく変えられました。現在、日本も深刻な状況になり、感染者数も増える一方で、医療崩壊のリスクに直面しています。感染拡大の防止ため、日本政府からマスク着用など呼びかけはありましたが、物資不足のため、状況改善まではまだ至っていないようです。

私たちの留学生活も夢も、その背後にある竜の子財団からの無償な援助と応援が大きかったです。数々の思いを与えてくれた竜の子財団へ、私たちは感謝してもしきれない気持ちを持っています。

この厳しい状況の中で、ずっと私たちを支えてくださった竜の子財団とその関係者の方々も大変な状態に

なっています。飲水思源、一宿一飯。今度は私たちが恩返しする番です。

私たちは竜の子財団への寄付を呼びかけます。

この寄付活動の目的は、マスクなどの支援物資を一刻も早く竜の子財団に届き、私たちが大変お世話になった財団と関係者の皆様の力になることである。資金使途は公開し、必要な支援物資を購入して竜の子奨学生の名義で、竜の子財団と財団を支える関係者にお届けします。

この大変な状態を乗り越えるため、皆が力を合わせて、財団への恩返しを実現して、共に新型コロナウイルスに打ち勝ち、いつかまた笑い合いましょう！

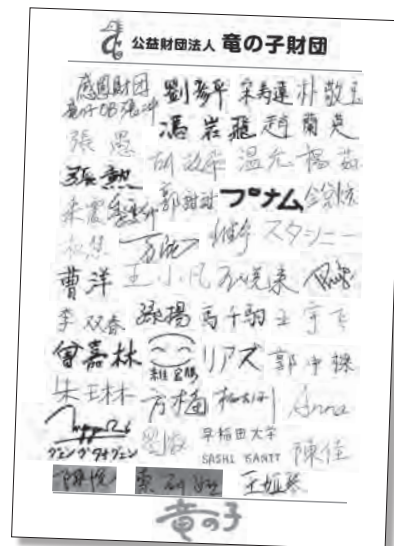
皆さんの健康を願っています。

実行委員：

張 冲（立命館大学卒業）	万 欣（電気通信大学卒業）	孫 揚（立命館大学卒業）
王 小凡（一橋大学卒業）	郭 甜甜（東京医科歯科大学卒業）	権 慧（東京大学卒業）
趙 蘭英（京都大学卒業）	朱 震（京都大学卒業）	
宋 寿連（慶応義塾大学卒業）	曹 洋（京都大学卒業）	

以下、寄付活動の経過となります。

4/27	張冲さんが財団に連絡し、マスク不足で財団の日常業務が困難である状況がわかり、マスク1,000枚を財団に寄贈	4/28	宣伝活動による寄付者が増加し、さらにFacebookやLineなどSNSにて寄付提案書を展開
4/27	寄付活動が発足、宣伝と募金のための実行委員会が設立	4/28	竜の子財団への応援の一環として、サイン集めを開始
		4/29	同日14時、募金締め切り
		4/29	同日18時、22,500枚のマスクが準備完了、応援メッセージと合わせて竜の子財団宛に発送



● 理事長より竜の子卒業生へ ●

皆さん、お元気で過ごされていますか？
お久しぶりです。
竜の子財団・理事長の秋元です。

この度は、二万枚を超えるマスクを送って下さり、本当にありがとうございます。

酷い情勢となり、我々財団スタッフも、現在は自宅待機となりました。テレワークにより、自宅で過ごす時間が多くなりましたが、いち早く皆さんにお礼を申し上げたく思い、この誌面にて感謝の気持ちをお伝え致します。

今回のこの御寄付には本当に感激致しました。
皆さんを心から誇りに思います。

「飲水思源」という言葉は日本でも知られています
が、皆さんが卒業後も財団のことを忘れず、このよう
にたった3日の間に、不足していたマスクを届けて下
さったことに、本当に感謝しております。

張さんをはじめとする47名のOB・OGの有志の皆さん、本当にありがとうございます。

一刻も早く現在の情勢が落ち着くことを願い、そして、今年の暮れに予定されている4年に一度のOB・OG会にて、皆さんの元気な姿をこの目で見て、一人一人に感謝の言葉を伝えたいと思っています。

本当に嬉しくて、元気が出ました。竜の子財団スタッフ一同喜んでおります。

皆さんの意思を汲みまして、この頂いたマスクは、これまでの選考委員、理事、監事、評議員の皆さん、寄附者の皆様、交流会を支援して下さいっている皆さんをはじめとする方々にて、有効に活用させて頂きたいと考えております。

取り急ぎ、この文面をもちまして、感謝の意とさせていただきます。

みなさん、本当にありがとうございます。
再会を楽しみにしております。

理事長 秋元 竜弥



秋元理事長お礼の言葉



椎塚理事と池田さん、加藤さん

令和二年度新入生紹介 「私の尊敬する人・ご自身の夢」

今春の卒業式・贈呈式がコロナ影響で中止となり、令和二年度新入生のご紹介が遅くなりました。ここで、新入生の「私の尊敬する人・ご自身の夢」について語っていただきました。尊敬する人がいれば、自分もそうなりたいと願い、日々頑張れると思います。皆さんの想いとともにご紹介させていただきます。



チ ジンウイ
祁 婧鈺 (中国出身)

東北大学
歯学研究科
口腔システム補綴学分野 博士3年

それぞれの人の心の中には、それぞれ最も尊敬する人がいます。その人から時々激励を受け、向上心を保ち、私は成長してきました。

人生のどの段階においても尊敬する人がいると思います。今、私が一番尊敬しているのは、私の教授です。私の教授は博学で、いつも教授から多くを学ぶことができます。

専門分野の研究の面で、教授はいつも独自の見解を持っていて、私を助けてくれるので、独創的な素晴らしい研究を完成出来そうです。生活面でも、彼は多方面の知識があり、日本の伝統文化だけではなく、国外の伝統文化もよく知っています。さらに教授は親切で、誰に対しても友好的なので、多くの外国人の友人がいます。私はすでに教授に付いて3年間勉強しており、多くの学生と先生方と共に、様々なことを教授から学びました。

私の夢は、中国と日本を中心とするアジアの口腔研究センターのようなものを作り、諸国の臨床及び研究などを共有し、共に向上できるよう貢献することです。私の教授は私の夢が実現することを望んで、いつも私を励まして支えてくれます。私は今、夢のために着実に勉強し、少しずつ夢に向かって進んでいきます。



チョウ シュンキ
趙 春琪 (中国出身)

東京大学
情報理工学系研究科 博士一年

私の尊敬する人は、今の研究室の先生、いわゆる指導教員です。

先生は世界におけるHuman-Computer Interaction分野の権威ですが、今でも常に研究に対する情熱を抱いています。研究室内部のミーティングはもちろん、学会でも若手研究者を励ますために、いつも発表者に最初の質問をします。そんな純粋な研究者としての姿と探究心を見ると、私はすごく感動し、また尊敬します。将来、私は大学の学者より、企業の研究員になりたいと思っていますが、先生は研究者の手本を示してくれました。

Human-Computer Interactionは、人間とコンピューターの間に、斬新、そして有用なインタラクションを作り出す分野です。そこにおいて、今も、将来学校を卒業した後も、先生に教わった研究者の在り方を忘れず、本当に有用なツールを開発して、この分野と業界に貢献したいと思います。



ラフィ ルバイヤット (バングラディシュ出身)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋研究科 (GSA) 1年

私の尊敬する人は、片づけコンサルタントの近藤麻理恵さんです。近藤さんの著書はミリオンセラーとなり、アメリカの雑誌TIMEの「世界で最も影響力のある100人」にも選ばれました。私は、近藤さんの「ときめくかどうか」を基準に捨てるものと残すものを選ぶ方法によって、自分の部屋の大掃除を成功させた経験があります。

「ときめくかどうか」で判断することで自分の内面を見つめることができ、今も私が物事を選択する時の軸になっています。近藤さんのメソッドで自分を変えた経験を活かして、私も周囲に影響を与えられる人物になりたいと思っています。



ファウズィア カマリナ
FAUZIYYAH QAMARINA
(マレーシア出身)

東京電機大学大学院
理工学研究科 電子・機械工学専攻 修士1年

尊敬する人について聞かれた時、社会で影響力のある大人物の名前は出てきません。私が、世界で一番尊敬している人は私の両親です。私が敬愛する“永続的な強さ”を持っている両親は、私の人生において特別な存在であり、私を支えてくれるだけでなく、優しさも与えてくれます。そんな両親を尊敬しないわけがありません。今まで、私のためにすべてを犠牲にしてくれました。両親は家族に必要なものを全て与えようと一生懸命働いてくれています。私が大学に入ってエンジニアとしての夢とキャリアを追えるように、頑張れといつも背中を押してくれています。私は、両親がいない人生を想像することはできません。両親を尊敬することは、私にとっては大事なことです。これからもずっと両親を尊敬し愛し、また両親も私を愛してくれることを知っています。

私の夢は、卒業したら一生懸命働いて、両親に恩返しをして、好きなものを好きなだけプレゼントして甘えさせてあげることです。



ホセイニルテ セイイドシャリヤル
(イラン出身)

東海大学
工学部 建築学科2年生

私が尊敬する人は“自分”です。私は父、母、姉がいる4人家族です。私の家族はとても貧しく、食べるものもなかったため、6歳の頃から働きにしなければならませんでした。子供の頃は朝から学校に行き夜に仕事に行っていたため、勉強よりお金の心配をしていました。なので私は子供の頃、家族や自分のためにお金持ちになりたいと思っていました。そのため、18歳までにたくさんの勉強や経験をしてお金持ちになる努力をしました。高校を卒業したらすぐ日本に行こうと考えていましたが、姉が大学に合格したため、姉の学費を私が払いました。また、父が仕事を失っていたため、店を開いて父にその店を働く場としてプレゼントしました。そのため、日本に来るのが少し遅れました。

今、姉は医者になり、父は立派に仕事をしています。私は、私の頑張りで家族を幸せにすることができてとても嬉しく思っています。それと同時に、家族を助けられたことを誇りに思っています。なので私は自分のことを尊敬しています。

また、日本に来るまではお金を得ることが目的となっていました。日本の大学に入り建築を学ぶうちに、考え方が変わり、発明的な建築物を作って、有名になりたいと思うようになりました。そして、有名になったら、私の人生を本に書き記し、これから生まれてくる人たちから尊敬される人になることが私の夢です。私は今、学費や生活費を自分で稼ぎながら勉強している最中です。夢への道のりはまだまだ遠いですが、一歩ずつ、夢を叶えるために頑張っていきたいです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。



ミン キョンソク
閔 庚夕 (韓国出身)

名古屋大学 環境学研究科
地球環境科学専攻 博士後期課程3年

世の中には様々な英雄や尊敬されている方々がいます。宗教の開祖を始め、歴史に名を残した人、そして、世界的に成功している経営者など。

私にとって尊敬する人は私の指導教員です。今一生懸命勉強している分野の第一人者と呼ばれている方ですが、私が尊敬する理由は、夢を持っている学生さんたちに、諦めないように説得する力や、わかりやすく説明する指導力があるところです。この力は本当に見習いたいと思います。また、私の足りない部分を的確に指導して下さることも、私にとってありがたいと共に、学びたいところでもあります。私も（うまく課程が進めば）1年後には社会に戻って、社会人として活動しなければなりません。その時、私の指導教員が持っているこの力を習得していたら、きっと役に立ち、もっと自分自身を成長させることができると思います。



ソウ カシン
鄒 可昕 (中国出身)

京都大学大学院
人間環境学研究科 相関環境学専攻 修士一回生

私が尊敬する人は、日本の化学者・藤島昭先生です。なぜなら藤島先生は研究面で世界を変えた「光触媒」という物質を発見し、環境問題の解決に貢献されただけでなく、教育面でも数多くの中国人研究者を育て、日中の架け橋になっているからです。

藤島先生は光触媒研究の第一人者として、50年前「Nature」に論文を掲載して以来、常に化学の最前線を走り続け新しいものを生み出しています。光触媒空気清浄機、光触媒タイル、光触媒ガラス等、さまざまなセルフクリーニング製品が生まれたのは、全部藤島先生のおかげです。そして、先生の教え子の中国人留学生のうち、3人が中国科学院の院士になりました。先生ご自身も中国工程院の外国人院士に選ばれました。先生は中国の化学発展に多大な貢献をされたと言っても過言ではないと思います。

私も藤島先生のように、将来は環境問題の解決に寄与できる研究者、および人材を育成できる教師になり、中国、および世界の発展のために貢献出来るよう一杯頑張っていきたいです。

竜の子近況報告



自分で作った
中華饅頭

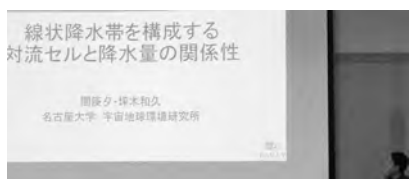
キン エキグン
金 奕群 (中国)

早稲田大学大学院 商学研究科
商学専攻 博士3年

「料理に時間をかけています。」

春学期の授業はすべてオンラインで実施することになり、今年の2月からほとんど大学に行っていません。近所の料理屋さんは営業していますが、テイクアウトやデリバリーのコストパフォーマンスがあまりにも低いので、おいしいものを食べたいときは、自分で作ることにしています。炒め物はもちろんですが、ラーメンや、餃子など麺類にチャレンジしています。仕込みだけで2、3日かかる場合もあります。

勉強面については、データが必要な実証分析はできなかったのですが、文献レビューを実施しました。場合によって、かなり古い文献まで遡る必要があります。縦書きの資料を読むのには、結構時間がかかりました。今は、出来ることを頑張るしかないと思っています。



コロナ前の学会にて

ミン キョンソク
閔 庚夕 (韓国)

名古屋大学 環境学研究科
地球環境科学専攻 博士後期課程3年

「卒業を目指して頑張っています。」

現在、私は博士課程の3年目で、卒業を目指して頑張って研究を進めています。新型コロナの影響で、4月から5月まで、研究室に行くことができず、家で作業していましたが、今は毎日研究室に通っています。

卒業のためには、ジャーナル論文が採用されなければなりません。今は、前回提出した論文の原稿がコメントと一緒に戻ってきているので、頑張って直しています。

皆さんと会って、いろいろな経験談を聞きたいのですが、新型コロナの影響で、なかなか会えないことが非常に残念です。お会いする機会を楽しみにしながら、引き続き研究を頑張ります。

皆様、ご自愛ください。



XRD分析装置を使って測定した資料の情報を解析していたところの姿

パク ユンシク
朴 胤植 (韓国)

東京工業大学大学院 理工学研究科
科学工学専攻 博士4年

「コロナ時代を生きていく心構え」

4月から最近まで新型コロナウイルスの影響で、自宅待機となり、大学に入れなくなりました。なかなか収束の兆しが見えない状況の中で、実験もできなくなったので頭を使う作業を中心に研究を進めました。6月初めから、週2回、12時間という制限で研究室に行けるようになり、今までできなかった実験を集中して行っています。今年は結果を出さなければならないので、存分に実験ができないこの状況が苦しい気持ちもありましたが、今は短い時間でも研究が出来るようになって嬉しいです。

竜の子財団の皆様、今は苦しい時期だと思いますが、過ぎし日を省みて見逃した事がないか点検し、一息いれながら未来に備える機会にするのはどうでしょうか。不安に負けないよう心を引き締めて乗り越えましょう！そして金さんへ、一緒に筋トレできる日が来ると良いですね。一日も早く以前の生活に戻ること、そして元気な姿で皆さんと会える日を楽しみにします。



お母さんとイランの空港にて

ホセニルテ セイエドシャリヤル (イラン)

東海大学 工学部 建築学科2年生

「オンライン授業 漢字難しい」

私はイランから日本に来て、初めて漢字を見ました。初めて見た時は絵だと思いました。。今まで大学の授業では、漢字が分からない時は友達に助けてもらっていました。しかし、今はコロナで友達に会えないので、オンライン授業で見る漢字の翻訳でとても忙しくなっています。しかし、漢字を翻訳しているうちにだんだんと読める漢字が増えてきていることに気がつきました。コロナの影響で友達に会えなくてつまらないですが、漢字の翻訳を続けて自分の力になっていくことが実感できているので、この機会に漢字を全部覚えて、自力で読めるようにしようと思っています。



息子と散歩中

ヒョウ ガンヒ
馮 岩飛 (中国)

北海道大学大学院
国際広報メディア観光研究科 博士4年

「社会的距離と家族」

今年の一月、はじめての旧正月を過ごすため、妻が息子を連れて中国に帰国しました。その後、コロナが世界規模で猛威を振るようになり、各国が次々と封鎖され、国境を跨ぐ人々の移動が激減しました。3月に日本に戻る予定だった妻子が私と離れ離れになって5ヶ月も経った頃、二人の再入国がようやく認められ、無事再会することができました。

一歳になったばかりの息子は当然私のことを覚えていなくて、私が抱っこしようとすると、怖がって泣いてしまいました。何日か一緒に過ごすうちに、段々私になついてきており、ほっとしています。

コロナ禍で社会的距離が強調され、家族と一緒に過ごす時間が増え、その結果家庭内で様々な問題が生じているとテレビでよく目にしますが、私の場合、逆に家族と一緒に過ごすことの大切さを身をもって感じております。社会的距離を意識するのは、我々の大切な家族を守るためなのではないでしょうか。



友達と家で撮影会 (本人右)

サイ レイカ
崔 麗華 (中国)

京都大学大学院 農学研究科
森林科学専攻 博士2年

「周りの人を大切にしながら毎日を」

コロナの影響で外出があまりできず、今普段の移動範囲は家とスーパーの間ぐらいです。毎日家に一人っていると落ち込んでしまったり、寂しくなったりするかもしれませんが、私には幸いなことに、ルームメイトもいて、隣に大家さんもいて、コロナが発生してからこの数か月間、周りにいる人々と過ごす時間が長くなり、お互いに友情を深められた気がします。そして、普段学校や様々な活動で忙しくてできなかったこともできるようになりました。家ではパンやケーキを自分で焼いて食べたり、週2～3回ヨガをするようになりました。ゆっくりできる時間が増えて、自分の体やメンタル、そして友達との関係もきちんとケアできるようになったのではないかと思います。週末になると、友達と周辺にある山や海に自転車で行ってストレスを解消するようにしています。忙しくて今までできなかった「琵琶湖一周」もやっと実現できました。

いつコロナが落ち着いて帰国できるようになるのかと不安になることもあります。できる限り自分の生活も気持ちも現在の状況に適応させ、コロナと共に周りの人達とどのように楽しく暮らせるか、その方法を探していきたいと思います。



休講日のドライブ、日光の東照宮にて (本人右端)

キム ジュウク
金 宰煜 (韓国)

一橋大学大学院 法学研究科
法学専攻 修士3年

「ロースクール最終学年」

今年でロースクール最終学年。一番勉強しなければならない時期なのに、何故かロースクール生だけが学校施設への立入禁止要請を受けており、研究室や図書館が使えない状態です。自宅で勉強できない私にとっては非常に辛い日々が続いています。

もちろん、悪いことばかりではありません。授業が全てオンライン化され時間と場所の制約がなくなった分、海外に出ているOBが授業に参加してくださったり、裁判官の先生方とズームでいくらでもお喋りできたりするなど、良いこともあります。OB、OGの方々の話を聞いていると、法曹の仕事のバリエーションの広さに感激してしまいます。私も、就活の時期が近づいてきたせいか、司法試験後のキャリアについて色々と考えてようになりました。

最後に、学業以外の話をしますと、緊急事態宣言が解除されたおかげでジムの営業が再開され、ほぼ毎日通っています。確かユンさんもジムに通っていると思いますが(前回の会報誌参照)、コロナが収まったら一緒に筋トレしたいです。他の方ももし宜しければ是非!

「入試がオンラインになりました。」



私と私を支えてくれたエスカップたち

ソウ カリン
曾 嘉林 (中国)

九州大学大学院 総合理工学部
物質理工学専攻 修士2年

コロナの影響で、4月7日の緊急事態宣言が出された後、学校に行けなくなりましたが、論文の修正、修論の作成、博士入試の準備など、締め切りがいっぱいあり、普段より忙しい日々を送りました。学校で実験している時は22時半くらいに家に帰りますが、在宅中はよく25時頃まで修論を修正して助教の先生に送ってました。週一回しか外出できず、いろいろ重なって、忙しくて大変な時期でしたが、やることがいっぱいあったおかげで、充実した2ヶ月を過ごせました。そしてついに、5月末にキャンパスの立ち入り制限が緩和され、修士2年生と博士3年生が研究室に行けるようになりました。実験をやりながら修論発表兼博士入試の準備していると、やはり在宅のほうが入試準備に集中できるなと思ってしまいました。

そして、3密を回避するため、今年の修論発表兼博士入試はオンラインで行われました。先生たちの顔が見えないので、緊張感が全く無い状態で、今やテレワーク標準装備となったワイシャツと短パンという服装で発表を行いました。

コロナが収束した後、通常の研究生活に戻り、皆さんと会えるのを楽しみにしています。



イードと一緒に祝ったマレーシアの友人
(本人1列目左)

ファウズィア カマリナ
FAUZIYAH QAMARINA (マレーシア)

東京電機大学大学院 理工学研究科
電子・機械工学専攻 修士1年

「日本では、イードのお祝い」
私は日本でイードを祝うのは、今年で3年目です。イードとは、ラマダーン（ムスリムの日中の間に断食を行う月）の終わりを祝う行事です。今年のイードはマレーシアに帰る予定でしたが、コロナの影響で中止になってしまいました。そこで、その寂しさを乗り越えるために、友人と家でパーティーを行い、伝統料理をたくさん作りました。近くに住んでいる友人も呼んで一緒にお祝いしました。例年、マレーシア大使館で他のマレーシア人達と一緒にイードを祝っていましたが、今年はコロナの影響で大使館主催のパーティーは中止となりました。来年はマレーシアに帰って、家族とお祝いしたいと思います。



札幌テレビ塔の下でのコロナ時期らしい様子 (本人右)

オウ カネイ
王 佳寧 (中国)

北海道大学大学院 教育研究科
教育行政学専攻 修士2年

「コロナ時代のライフスタイル」
新型コロナウイルスの影響でみなさんも自粛生活を送られているかと思います。北大では4月末から登校禁止となって、その後殆ど家で過ごしています。家で本を読んだり、論文を書いたりすることはできますが、長く家にいると何となく寂しさを感じる時もあります。そこでうちのゼミはZOOM版のオンライン飲み会を開いたのですが、久々に友達の笑顔が見られて本当に楽しかったです。

以前は当たり前のように感じていた日常のライフスタイルがどれほど大切で充実していたのかを改めて痛感しています。最近コロナが少し落ち着いてきましたが、これからも油断する事は出来ません。ちょっとずつ前の生活に戻り、ちょっとずつ普通の生活が出来るようになれば良いなと思います。



久しぶりの研究室

チョウ シュンキ
趙 春琪 (中国)

東京工業大学大学院 理工学研究科
化学工学専攻 博士3年

「コロナでも勉強会」
新型コロナウイルスの影響で、学会や勉強会など色々予定が狂っています。新学期以来、研究室も専攻もゼミは全部オンライン化しました。緊急事態宣言解除後の先日、画像認識権威学会のCVPR (Computer Vision and Pattern Recognition) もオンラインで開催されて、私は久しぶりに技術者の友人と、あるメンバーの自宅で、プライベートな勉強会を実施し、たくさん最新の論文を勉強、議論しました。これから研究も忙しくなりますので、コロナに負けず、出来るだけ研究室に行きたいと思っています。



花畑を楽しんでいる私

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)

九州大学大学院 生物資源環境科学府
環境農学専攻 博士3年

「久しぶりに出かけました」

4月の交流会が開催ができなくて本当に残念に思いました。東京ではコロナの情勢がまた厳しくなっているようですが、皆様、どうぞお気をつけくださいね。

この数カ月間は自分一人の時間が多くなり、どうやって自分とうまく向き合えるかという問題に直面しています。数十年後にこの時期を思い出した時、我々はどのような気持ちになるのでしょうか。

福岡ではコロナが落ち着いてきたため、先日久しぶりに、可愛いドレスを着て（笑笑）出かけました。行先の能古島は、自宅から地下鉄で20分、そこから10分ほどの船旅を楽しみながら行くことが出来る離島です。島の公園では花畑を存分に鑑賞することができ、更に、福岡県内で2番目に高い展望台からは絶景も楽しめました。十分にリラックスでき、大満足でした。

今は九大は自由に登校できるようになったので、これまで溜まっていた実験を精一杯やろうと思います。



スウェーデンの首都
ストックホルムにある
スウェーデン王宮にて

ラフィ ルバイヤット (バングラディシュ)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋研究科 (GSA) 1年

「新しいライフスタイルの始まり。」

立命館アジア太平洋大学で勉強しているラフィと申します。困難な時期を迎えていますが、皆様の健康と安全を願っています。現在、大分県の別府市に住んでおり、オンラインで授業を受けています。以前は大分空港で働いていましたが、残念ながらコロナウイルスでこのアルバイトを失いました。しかし、竜の子財団の奨学金のおかげで、私は生活することが出来、安全を確保することができました。長い間家にいることは健康に良くないので、時々ジムに行って健康を維持しています。学校に行ったり、友達と交流したり、図書館で本を読んだりする日々が本当に恋しいです。

また7月からボランティア活動に参加し、経済危機の学生に米とパスタを配るという仕事をしています。この活動を通じて、私は社会に貢献し、困っている人を助けたいと思っています。

ニュースレターで皆様の現在の状況を知り、皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

よろしく願いいたします。



白石川堤一目千本桜
にてお花見

チ ジンウェイ
祁 婧鈺 (中国)

東北大学 歯学研究科
口腔システム補綴学分野 博士3年

「忙しくて、楽しい日々」

所属する研究室は、口腔システム補綴学分野です。既に、来日から2年が経過し、日本での生活、研究等にも慣れてきました。私の研究内容は、今日の歯科で大きな治療モデルティとなっている歯冠補綴措置に関するものであり、それらの支えとなる歯、インプラントとそれにセメント等で連結される歯冠補綴装置の連結状態を共振周波数分析により非侵襲的に診断する方法の開発についてです。

4月から、新型コロナウイルスによる影響が大変でした。学校の感染拡大防止レベルは4なので、ずっと自宅勉強していました。5月から、仙台の感染状況がよくなり、感染拡大防止レベルは1になったので、学校で日本語の勉強と研究を続けて、研究活動は順調に再開しています。今は研究の大切な時なので、毎日忙しいですがとても楽しいです。学校以外、どこも行くことができませんが、もし新型コロナウイルスの状況がよくなったら、東京に行きたいと思っています。

「研究は順調に進んでいます。」

コロナの影響で、二月以来、実験や討論会が、まったくできなくなりました。毎日家で、心理学の本を読んだり、ハーブを育てたり、一日中部屋に居ても寂しくないように色々な活動を試しました。でも、結局友達や研究室のみなさんと会えなくて、すごく寂しいと感じました。そして、五月から、久しぶりに研究生生活を再開しました。あれから毎日、この貴重な時間を大切にして研究をコツコツとやっています。ようやく先週、素晴らしい結果が出ました。この結果を踏まえて、国際ジャーナルに論文を投稿することも望んでいます。またWEBで開催された学会も二回参加して、いい経験が出来、勉強になりました。

生活面については、外食が厳しい状況なので自炊の勉強を始めました。ネットで中華料理の作り方を学んで、最初は簡単に作れると思うのですが、実際にやってみると完全に失敗してしまいます。もはや化学実験より難しいと感じています。

この調子で、研究と料理の勉強をこれからもっと頑張りたいと思います。



大文字山で撮った写真

ゾウ カシン
鄒 可昕 (中国)

京都大学大学院
人間環境学研究科 相関環境学専攻
修士一回生

竜の子(OB・OG)近況報告



届いた医療物資とそのスローガン

ギ トウ キ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「We came to help, just because we know how hard it is…」

時は2020年4月24日、日本におけるコロナ感染の拡大状況が日に日に緊迫していた中、中国江蘇省統戦部からサージカルマスクと防護服が東京に寄付されました。日本側の窓口として、その物流手配に携わった私たちのところに届いたのは医療物資と、それに掲げられたあるスローガンでした。“We came to help, just because we know how hard it is…”。後日、中国側に謝意を伝えた際、その統戦部の葛副部長が今回の寄付の意義について語ってくれました。「中国が一番危機的な時期に助けてくれた日本への恩返しと同時に、隣国の日本が医療崩壊に陥れば、中国も独善的な立場でいられないからね。」と本音で話してくれました。

日本にも「情けは人の為ならず」ということわざがあります。このような価値観をどんどん共有していけば、このコロナ禍はきっと乗り越えられると信じています。



ベトナムのTVより

レティ テュ ヴァン《ヴィニ》(ベトナム・ハノイ)
九州大学卒業

「シドニーでの新しい生活」

結婚後、私はシドニーに移り、去年の終わりにすべてのキャリアをやり直すことを決断しました。私はまだシドニー市民ではありません。更に、現在はコロナウイルスの影響を受けているために、ここでソーシャルワークの分野でフルタイムの仕事をすぐに見つけることは難しいです。そこで私は、“美”と“テレビ”という新しい分野に挑戦することにしました。私はメイクアップとマーケティングで2つの認定を取得しました。再スタートから3ヶ月後、私はセールスコンサルタントとして出発点に立ち、現在、David Jonesで日本のシュウウエムラブランドのカウンターマネージャーとして働いています。

また同時に、私は、ベトナムのテレビ局VTVにて、オーストラリアでのベトナム人の生活を伝える記者としても働いています。



ドイツで一番大きな湖、
Bodensee湖

タン インチャン (マレーシア)
筑波大学卒業

「皆様、久しぶりです！」

ドイツからご報告します。今年、私は修士二年生になりました。単位もどんどん厳しくなっていますが、勉強内容は面白くなっています。私の大学がある街は勉強に励みやすい環境で、近くにはドイツで一番大きな湖があります。また、隣のスイスの山にも登ることができますし、色々な水辺のスポーツもできます。冬になると、日本で学んだ頃を思い出します。雪はあまり振らず、寒いです。日本を恋しく思います。

さらにもう一つご報告があります！最近、私は就職活動を始めたばかりなので、皆さん、もしも仕事があれば私にぜひご連絡ください。笑
それでは、皆さんぜひ気をつけてお過ごしください！
よろしくお願いします！



昨年の短期海外調査で中国人民大学との交流会にて (本人前列右3番目)

バク ケイギョク
朴 敬玉 (中国)
一橋大学卒業

「今を乗り越えて、次の目標のために」

新型コロナウイルスで世界がたいへんな状況になっていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。毎年9月には一橋大学の学部生を引率して、「短期海外調査」で10日間北京と上海に行っていましたが、今年は断念せざるを得ません。今は自宅や研究室で大学生向けにオンラインで授業をやってます。今年はこのような状況が続きそうですが、健康であることに感謝しながら、今の危機を乗り越え、中国の大学生や企業家たちとの交流の再開に向けて頑張りたいと思います。



コロナ前の家族旅行。カナダ・ケベックシティにて (本人右)

ソン チャンソク
宋 昌錫 (韓国)
東京大学卒業

「再入学！」

2010年に卒業しましたOBの宋昌錫 (ソン チャンソク) です。久しぶりの近況報告になります。

卒業後、すぐ子供が生まれ、日本で就職し、自分の専門分野である建築関連企業で研究開発の仕事をしています。当初は、博士学位の取得と共に自分の学校生活に終止符を打ったつもりでしたが、今春からMBA学位の取得を目指して早稲田大学大学院のビジネススクールに入学しました。コロナ渦で大学への立ち入り禁止、及びすべての授業のオンライン化により、予想外の変った形で大学院生活を満喫しています。これから2年間、奨学生のみなさんと一緒に学業 (と仕事) を頑張っていきたいです。



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも



作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず